

THE DAILY JESUS NEWS

An ATJ Ministries Publication by John Wright

デイリー・ジーザス・ニュース #363

天国におけるイエスの永遠の奉仕

復活したイエスの永遠の未来にわたる言葉と働き

「ほふられた子羊」としてすべての被造物から崇拜されています。

黙示録5.1-14

1 また、私は、玉座に座っておられる方の右の手に巻物があるのを見た。その表も裏も文字が書かれており、七つの封印で封じられていた。2 また、私は、ひとりの力強い御使いが、大声でこう言うのを見た。」その封印を解いて、巻物を開くのにふさわしい者はだれか。」

3 しかし、天にも地にも地の下にも、その巻物を開く資格のある者はひとりもいませんでした。4 巷物を開く資格のある者も、その中を見る資格のある者も、だれも見つからなかつたので、わたしは泣き続けました。

5 すると、長老の一人が私に言いました。」もう泣くのはやめなさい。見よ、ユダ族の獅子、ダビデの若枝が勝利を得た。彼は巻物と七つの封印を開くにふさわしい方である。」

6 それから私は、ほふられた小羊が、玉座の中央に立っていたのを見た。四つの生き物と長老たちは、小羊を取り囲んでいた。小羊には七つの角と七つの目があった。これらは、全地に遣わされた神の七つの靈である。

7 イエスは進み出て、玉座に座っておられる方の右の手から巻物を受け取りました。8 イエスがそれを受け取ると、四つの生き物と二十四人の長老たちは小羊の前にひれ伏しました。彼らはそれぞれ豎琴を持ち、香の満ちた金の鉢を手に持っていました。香とは神の民の祈りです⁹。そして彼らは新しい歌を歌つて言いました。

」ふさわしい！あなたは巻物を受け取るにふさわしい

そしてその封印を解くために、

あなたが殺されたから、

そして、あなたたちは自分の血によって神のために、神の名において買ひ取つたのです。

あらゆる部族、言語、民族、国家の人々。

10 あなたは彼らを王国とし、私たちの神に仕える祭司とされました。
そして彼らは地上を支配するであろう。」

11 それから私は見ていると、御座と生き物と長老たちを取り囲む多くの御使いたちの声を聞いた。その数は千の千倍、万の万倍であった。12 彼らは耳をつんざくような声でこう言っていた。

」屠られた子羊こそはふさわしい。
すべての力と富と知恵と強さを受け取るために
そして名誉と栄光と賛美を！」

13 そのとき、わたしは天と地と地の下と海の上のすべての生き物、またその中にいるすべてのものがこう言うのを聞いた。

「御座に座しておられる方と小羊に
すべての賛美と名誉と栄光と力とが
永遠にいつまでも！」

14 四つの生き物は」アーメン」と言い、長老たちはひれ伏して礼拝しました。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ =^{MT}、マーク =^M、ルカ =^L、ヨハネ =^J、使徒行伝 =^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。** 旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

| | |
|-----------|---------------------------------|
| 位置 | トルコ沖のギリシャのパトモス島 |
| タイムライン | イエスの昇天から約60年後 |
| イエスの生涯の文脈 | 第9段階：イエスの復活と永遠の宣教 |
| | イエスの永遠の奉仕 |
| | 復活したイエスの永遠の未来にわたる言葉と働き |
| タイトル： | イエスは「屠られた子羊」としてすべての被造物から崇拜されている |

「DAILY JESUS NEWS」シリーズの最後の3つの朗読に至りました。どれも素晴らしい内容です。イエスとの永遠の交わりにおける私たちの人生におけるイエスの永遠の役割、そして私たち自身の永遠における役割を示しています。この3つの朗読は、私たちが今、永遠に行うために訓練されていることを教えてくれます。ちなみに、今日の朗読は「DAILY JESUS NEWS」の365回の朗読の中で一番のお気に入りです。実際、聖書の中で最も好きな章です。ハイライトについて書くにあたり、興奮を抑えながら書こうと思います。

この章の鍵となるのは、ヨハネが、イエスが「屠られた高貴な子羊」としてすべての被造物によって同時に崇拜されるという、驚くべき未来の光景を目撃したことです。ここでは、神の御座から次々と広がる波のように、崇拜への参加が最高潮に達しています。

礼拝の中心は宇宙の中心、まさに神の御座です。イエスは父なる神によって中心に据えられました。父なる神は、創造の前から御子イエスの卓越性を中心として万物を創造することを選ばれました。父なる神と聖霊の限りない愛とイエスへの誇りこそが、イエスを礼拝の最前線、人々の注目の中心に据えたのです。

ないでください。礼拝とは、神の無限の価値を認め、称えることであり、三位一体の神から始まるのです。三位一体の各位格は、他のお二方の真の価値を認めることを愛し、喜びます。実際、三位一体の位格は、宇宙において、互いの真の無限の価値を完全に認識できる唯一の存在です。三位一体の各位格は、互いの無限の価値を認識する全知の能力において、等しく無限です。したがって、礼拝は三位一体における互いの愛と、互いの完全性を意識的に認識することから始まります。

さらに、この場面において、父と聖霊はイエスをすべての被造物からの礼拝を受ける立場に置かれた。被造物は、その有限な性質ゆえに神を理解する能力に限界があるが、私たちは三位一体の神によって、すべての存在と共に聖なる三位一体の神を愛し、礼拝するために創造された。この礼拝は、私たちが創造され、贖われた栄光の頂点である。

「屠られた子羊」として示されました。イエスの手首と足の釘の跡、そして脇腹に刺された槍の跡は、復活したイエスの体に残され、すべての被造物が崇拜するようになりました。イエスが崇拜されるのは、四福音書に記された、イエスの苦しみ、死、復活、そして昇天という出来事が完璧に正確に記されているからです。これらの愛の救いの業を成し遂げたイエスの完全な忠実こそが、イエスを崇拜する根拠なのです。

第二の波となった礼拝者たちは、24人の長老たちでした。彼らは、旧約の民イスラエルの12部族を構成したヤコブの12人の子孫と、イエスが新約の民である教会を設立するために用いられた12使徒です。24人の長老たちは、歴代の旧約と新約の信者すべてを代表しています。

24人の長老たちは、イエスが屠られた子羊となった救いの御業、そしてその御業によってすべての信者が救いを受け、神への」祭司の王国」として永遠の奉仕の務めを創造されたことについて、特に歌いました。イエスは三位一体との特別な関係において人類を創造されました。イエスは受肉において、ヤギや鳥や蟻ではなく、人格を持たれました。イエスは人々を救うために亡くなり、私たちを創造された本来の目的、すなわち、礼拝する祭司としてイエスの似姿にあずかるために、私たちを回復させました。それゆえ、神に贖われた民には、私たちが個人的に経験した救いの御業について子羊を讃えるという、特別な祭司としての務めがあります。

第三の拡大する崇拝の波は、天にいる天使とその他の被造物すべてでした。その数は数え切れないほどです。ヨハネは、24人の長老の礼拝に彼らの声が加わったとき、その声を」耳をつんざくような」ものと表現しました。彼らは、屠られた子羊への独自の賛美の歌を歌いました。それは子羊の救いの業ではなく、子羊の真の価値を称える歌でした。天使は罪を犯したことがないため、救いを経験したことはありませんが、イエスによって創造された瞬間から、イエスの栄光と偉大さを経験してきました。

この場面における崇拝者の第4の波は、残りの被造物です。人々、そして陸と海に生命を持つすべての被造物が、この栄光に満ちた礼拝に加わり、賛美と礼拝を行いました。これは、これまで生きてきたすべての人々、そして他のすべての被造物も、この礼拝に加わることを意味します。天使たちが加わった時点で、礼拝がすでに」耳をつんざくほど」だったとすれば、すべての被造物を崇拝する力は、計り知れないほど強大だったと言えるでしょう。

この場面は、イエスがついに神人として正当な評価を受ける場面であり、非常に感動的です。地上でのイエスの生涯では、誰もそのことに気づきませんでした。神は自らの領土を歩み、イエスは地上の屑のように扱われました。イエスの復活後、弟子たちは神としてのイエスの地位の真価を理解し始めました。昇天後、世界中でイエスの価値を認める人々がますます増えています。しかし、当時でさえ、この世に生きる私たちは誰もイエスの威厳にふさわしい礼拝を捧げていません。なぜなら、私たちは依然として罪深い性質によって制限されているからです。そして、この地上の大多数の人々はイエスを信じていません。多くの人は、まだイエスについて聞いたことがないからです。残念ながら、イエスがこの地上で正当な評価を受けることは決してないでしょう。

対照的に、この場面では、イエスはすべての被造物によって同時に私たちの神聖な主、救い主として認められます。この世でイエスを信じたことがなく、自らの選択で永遠にイエスと離れて過ごす人々でさえ、この場面でひざまずき、イエスを主、神と名指します。ついに！ああ、王なるイエスがいつの日かすべての被造物から愛と崇拝を受けることを知ると、私の魂はどれほど感動することでしょう。たとえそれだけでも、イエスが本来受けるに値するほどの敬意を払うには十

分ではないかもしれません、被造物が示せる最大限の敬意となるでしょう。だからこそ、私は聖書のこの章を他のどの章よりも愛しているのです。

この場面は極めて重要です。歴史が向かう避けられない目的地こそが、まさにこの時なのです。この日の到来を止めることは何もありません。実際、イエスはこの瞬間を予期して世界を創造されました。私たち信者は、イエスがほとんど知られず、崇拝もされていないこの堕落した世界にあっても、今イエスを愛し従うことが、最終的に王への普遍的な崇拝につながるという確信を持って、主に仕え、生きることができます。だからこそ、イエスのために私たちが耐え忍ぶあらゆる犠牲と困難は、最終的に非常に価値のあるものとなるのです。イエスはついに、私たちの完全で価値ある主、救い主として、正当に認められるのです。

鍵となる考えは、「イエスはふさわしい」ということです。イエスは永遠にすべての被造物による普遍的な崇拝に値する方です。この地上での私たちの人生におけるいかなる犠牲も、イエスは払うに値します。イエスのために生きる価値があり、イエスのために死ぬ価値もあります。イエスは私たちの絶え間ない崇拝に値する方です。しかしながら、すべての被造物による普遍的な崇拝でさえ、イエスに値しません！これが私たちが従うイエスです。このようにして、イエスの物語は永遠に続くのです。

応用：

イエスは私たちを祭司の王国とされました。これは、三位一体の神との交わりにおける私たちの主な役割が礼拝であることを意味します。私たちは親友、そして「私の人生の愛」とも言えるような神を愛する人としての親密さへと召されています。私たちは自分の存在と行いのすべてをイエスと分かち合い、イエスも同様に、ご自身が持つもの、ご自身が持つものすべてを私たちと分かち合います。私たちの交わりは相互的です。

しかし、私たちの本来の地位は、決して平等ではありません。私たちは常に神の贖われた創造物であり、神は永遠に神です。ですから、礼拝の姿勢は、イエスとの交わりのすべてに浸透しなければなりません。礼拝の精神をもって行われない行為は、神にふさわしくありません。

最近、あなたの礼拝の姿勢やライフスタイルはどうですか？それはイエス様との交わりにどれほど深く浸透していますか？

あなたにとって神への最高の崇拝方法は何ですか？神への崇拝を深めるために何ができるでしょうか？

あなたは自分の教会の仲間の中で、他の人たちの礼拝をどのように奨励し、支援できるでしょうか。